

助成対象事業成果報告書(概要版)

| | |
|----------|--|
| 制度名 | 情報バリアフリー通信・放送役務提供・開発推進助成金 |
| 助成対象事業名 | 文化観光施設におけるバリアフリー・多言語化を実現するタブレットガイドサービスの提供及びコンテンツ作成自動化システムの開発 |
| 助成対象事業者名 | 株式会社ビューティフルワンズ |
| 助成金の額 | 9,971千円 |

【助成対象事業の全般について】

| | | |
|---|-----------|--|
| ① | 助成対象事業の概要 | 劇場などの文化観光施設を中心とした字幕表示や手話通訳などによるバリアフリーガイド及び多言語翻訳ガイドサービスの提供及びより広範囲に提供していくためのコンテンツ作成自動化を含む新規フロー及びシステムの構築を実施した。このほかに、サービス拡充のため、文化施設における情報保障をテーマにしたシンポジウムやICT・DXを主題にした通信事業者の国際展示会などに招聘されたため積極的に参画し、弊社サービスの浸透に努めた。 |
| ② | 助成対象事業の目標 | 文化観光施設におけるバリアフリー・多言語化を実現するタブレットガイドサービスの更なる拡大展開によって、主に聴覚障害者協会に向けた文化観光分野におけるバリアフリーサービスがより拡充していくことである。 この目標を達成する手段として、本年度はサービスの導入箇所数の拡充とその運用を支えるデジタルトランスフォーメーションをコンテンツ制作の部分で実現する。 |

【令和2年度実施部分について】

| | | |
|---|-------------|---|
| ③ | 助成対象事業の実施内容 | <p>【背景】</p> <p>①公立文化施設におけるガイド機器需要の増大</p> <p>聴覚障害者向けの通訳サービスの導入は特に公立文化施設において非常に乏しい。弊社は現在、文化観光施設において主に聴覚障害者に向けたタブレットガイドサービス事業を展開しているが、平成29年の改正で障害者に対する文化芸術の振興が明文化された文化芸術基本法第二条及び二十二条を端緒に障害者差別解消法、障害者による文化芸術活動の推進に関する法律、地域文化観光推進法案などの改正・施行等によって公立文化施設からの需要が増えている。</p> |
|---|-------------|---|

一方で既存の聴覚障害者向けに対応する公立文化施設向けのバリアフリーサービスは施設、サービス提供者共にコスト・人員面からの導入が進んでいないのが現状であり、それを解決する施策が求められている。

②サービス運用フローの一部自動化による効率化の必要性

様々なパートナーシップや啓蒙活動の成果によって導入箇所が増加するにつれ、コンテンツ制作などの運用の負荷が大きくなっていくことが予見され、現状の作業体制では早晚行き詰まる可能性が非常に高い。

そのため、本事業の役務としてコンテンツ作成機能の自動化機能及び制作フローを開発・構築することで、一層の省力化を図り、安定的なコンテンツ供給体制の構築を行う必要があった。

【実施内容】

①ガイドサービスの拡充

本年度はコロナ禍によって文化施設が事業期案内でほぼ閉鎖状態であったが(公財)公立文化施設協会とのパートナーシップ締結によって、アフターコロナにおけるサービス拡充に一定の目処をつけた。

コロナ禍においてもアフターコロナを見据えたモニターを含む導入問い合わせは多く寄せられており、緊急事態宣言が解除された時期から対応してきた(導入箇所は別紙参照)。

②コンテンツ作成のデジタルトランスフォーメーション

本年度はアフターコロナを見据えたサービス提供体制を効率化するためこれまで手作業でコンテンツを制作していたフローをシステムによって自動化し、導入施設自身でコンテンツ制作を実施できる仕組みを開発構築した。

③広報機会の活用

今年度は機材の導入だけではなく、シンポジウムや国際展示会への招聘といった機会を得た。「文化事業における情報保障とICTの活用」という切り口から、字幕ガイドサービスの必要性和弊社サービスの有益性をPRした。

| | | |
|---|-----------|---|
| | | <p>また、障害者の舞台芸術参画をテーマにした文化庁後援のシンポジウムにも招聘されゲストとして、文化施設における情報保障についてパネルディスカッションに参加するなど、サービスの普及活動の機会も積極的に活用した。</p> |
| ④ | 助成対象事業の成果 | <p>【成果】</p> <p>①ガイドサービスの拡充・広報機会の活動</p> <p>本年度はコロナ禍の影響で多くの公演が中止・延期となる中、アフターコロナにおける文化芸術観光などの需要回復を見据え、(公財)公立文化施設協会とのパートナーシップを締結した。同財団は全国2000カ所以上の公立文化施設の会員を抱え、新たに制定された障害者による文化芸術活動の推進に関する法律の拡充を目指している。</p> <p>また、大型劇場や文化庁などの啓蒙活動の一環として開催されるシンポジウムへの参加や、国際展示会への参加機会なども積極的に活用した。</p> <p>これらの活動によって文化施設界隈での弊社のサービス知名度が向上され、導入時期はコロナ次第となっているが、モニター導入などの問い合わせが去年の倍以上といっている。</p> <p>②コンテンツ作成のデジタルトランスフォーメーション</p> <p>本年度の研究開発によってコンテンツ制作の運用フローの大幅な効率化と時短が達成された。具体的にはコンテンツ制作・システム登録・管理、コンテンツの確認修正手続きに現在はCMSを用いても1公演につき3日人(8日×3日=24時間)かかっていた。</p> <p>今年度開発した自動化フローによって10時間まで短縮が可能となった。実際にシステムが存在すると仮定し、上記フローの確認作業をしてくれるアルバイトも含めて検討したところコンテンツの制作に1時間、進捗管理に1時間、コンテンツ確認修正に7時間、検収作業に1時間の合計10時間となり、従来に比べて60%近い効率化が達成された。</p> <p>また効率化に加えて、作業振り分けと進捗管理システムによって、ICTテレワークを活用した地方の子育てマザーや障害者視支援施設への作業依頼が可能となり、地方創生に貢献できる体制を構築できた</p> |

これは、予め作成されるテンプレートに沿って字幕にしたいデータを入力するだけで最終出力まで到達できるので、特別な知識や操作等が必要なく、これまで字幕コンテンツの制作を行ったことのない者でも問題なく作業を完結することが可能となった。

この運用効率化によって、低コストかつ特別な人的リソースの投入なく、幅広い文化観光施設などで導入することができるようになった。

【課題】

本年度の活動によって、弊社サービスの先端性が認知されコロナ後の需要増加が見込まれるようになった。またこの需要を支えるDXも完了した。

一方で2つの課題と新たな需要も確認された。1つ目が、タブレットガイドの予約システムがないために本当に必要としている来場者が使えないというトラブルが散見されたことである。

これを解消するために劇場は人的な作業で事前に利用者を特定し、連絡し、利用確認をしていた。この事務作業は文化施設スタッフの大きな負担となっている。

2つ目は本年度の達成できなかった目標である。計画立案段階では、本年度中に、大手事業者との提携・障害者の仕事創出につながるスキームづくりを掲げていたがコロナ禍の影響もあり達成ができなかった。

予定していた大規模事業者との提携も仕切り直しとなってしまい今後のサービス提供のスケジュールの再考を迫られている。また、障害者の仕事創出のスキーム作りにも影響が出ている。

一方、新たな需要としては、視覚障害者向けの点字ディスプレイバージョンである。文化施設という公共空間において、視覚障害者向けに同等のサービスの需要が高まっている。

コロナ禍もありまだケース数は少ないが、弊社の字幕サービスが導入されていることで初めて劇場で演劇を鑑賞した聴覚障害者もいた。この体験が広がることによって、視覚障害者からの字幕(この場合は点字字幕)の問い合わせも散見される。

次年度はこの2つの課題と需要にサービスの適応を目指したい。

| | | |
|---|--------|--|
| ⑤ | 補足説明事項 | <p>○対外的な成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(公財)公立文化施設協会とのパートナーシップ締結 ・舞台芸術鑑賞サービスショーケース&アートフォーラム出展 ・流山市にける導入実績に関する報道記事 ・TM フォーラム(情報通信事業者の国際展示会)への出展 ・TM オーラムにおけるカタリストを受賞 (Digital Business Marketplace 部門) ・弊社サービス活用レクチャーを聴覚障害者を含む関係者に提供 (ラポール横浜) ・障害者受けサービス導入を求める施設へのレクチャー(アクロス福岡) |
|---|--------|--|

舞台芸術
関係者の
ための

舞台芸術鑑賞サービス ショーケース&フォーラム2020

演出字幕や多言語字幕など、舞台芸術に活用できる多様な字幕サービスを体験いただけます

▶ショーケース&フォーラム 14:00~16:30

1部 ショーケース 劇団「MONO」による短編作品「駈落ちアニバーサリー」上演
作演出 土田英生 出演 高橋明日香、渡辺啓太

2部 フォーラム① 基調講演「テレビの字幕から学ぶ ~字幕サービスの価値~」
松隈 天(株式会社NHKグローバルメディアサービス、字幕制作センター長)

フォーラム② トークディスカッション「理念・想像から実践・行動へ」

パネリスト 土田英生 (MONO 代表、劇作家、演出家、舞劇)
平井 徹 (KAAT神奈川 芸術劇場 舞台技術課 プロダクションオフィス)
コーディネーター 大澤真雄 (株式会社ニッセイ先端研究開発文化プロジェクト推進担当)

▶フォローアップ研修 16:45~18:00 カルチャールームB(先着20名)

ショーケース&フォーラムで紹介する字幕サービスの具体的な実施方法を解説
※フォローアップ研修のみへの参加はおりません



動画配信も! (有料)
10月7日(水) 14:00~
アーカイブ視聴は配信終了より3日前
【参加費】1,000円
各種手数料がかかります
詳細は裏面をご覧ください



文化庁(主催) 全国24道府県庁による文化芸術創造推進文化芸術共生社会の推進(共催) (主 産)文化、一般社団法人国際発音学協会(共催) (共 賛) 財団法人全国公立文化施設協会
協 賛) MONO(株式会社NHKグローバルメディアサービス、KAAT(株式会社)神奈川芸術劇場、放送技術開発センター(株)のワーク(株)のワーク(株) Beautiful Ones(株式会社)イノベーション・イノベーション・イノベーション



https://www.tmforum.org/catalysts/digital-business-marketplace/



ICTによる効率化の仕組みが評価され

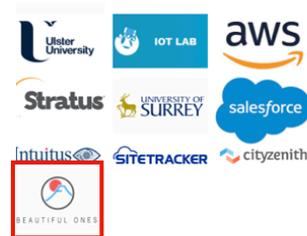
部外秘

世界最大の通信事業者向け展示会への出展・受賞

tmforum

TeleManagement Forum (以下、TM Forum) は、情報通信事業者向けの通信ネットワーク運用管理システムの相互接続性の向上と共通課題の解決を目的として、1988年に設立された非営利の国際コンソーシアムであり、世界36カ国から350以上の会社がメンバーとなっている。

協働参加企業



<https://www.tmforum.org/catalysts/digital-business-marketplace/>

BEAUTIFUL ONES Ltd.



CATALYST PROOF-OF-CONCEPT PROJECTS

See innovative proof-of-concept projects come to life...

Catalysts are rapid-fire proof-of-concept projects bringing together companies large and small to create innovative solutions to common challenges, leveraging key TM Forum best practices and standards to ensure scalability, reuse and reduced costs, and risk. After the success of the Catalyst Digital Showcase, learn what the teams have been working on and have the opportunity to discover the innovative solutions they've created.

Catalyst champions include:



Automating NaaS Lambda (λ) services

This Catalyst project introduces a Network as a Service (NaaS) platform to enable "complex" network transformations for the purposes of network monetization and decoupling Operations Support Systems (OSSs)/Business Support System (BSSs) from the network. This platform will leverage abstraction layer services to provision wavelength services using TM Forum Open APIs.

Champions: AT&T
Participants: Amdocs, Ciena - Blue Planet, IBM and Tech Mahindra

URN: C20.0.01

AI driven business assurance for 5G

This Catalyst demonstrates how digital service providers can use artificial intelligence (AI) technologies within their business assurance solutions to ensure 5G and edge digital services operate and perform as expected.

The project will use several API-based use cases -- for customer experience, revenue assurance, credit management, churn management, fraud management and AI-based 5G slicing -- to demonstrate how digital businesses in the 5G ecosystem can be protected.

Champions: BT, Deutsche Telekom, Orange, T-Mobile Netherlands
Participants: Amdocs, FICO, IBM, Latro Services, Tata Consultancy Services, Optare Solutions, OmniSci, SI-TECH

URN: C20.0.03

Digital Business Marketplace III

The previous phase of this Catalyst project demonstrated how a Smart X product manager can easily assemble, sell and deliver a range of own & third-party complex solutions in a fully automated, secure and Zero-Touch approach, creating new revenue streams for all the partners.

Phase III will harden the platform and services for production, by adding capability such as service assurance, federated identity management, distributed ledgers and network mapping, and to create specific solutions for the landscape of Industry 4.0 customers.

Champions: Agile Fractal Grid, BT, Chunghwa Telecom Company, Etsisat, Maxbyte, NTT, Telenor and TELUS
Participants: Accenture, Amazon Web Services, BearingPoint/Beyond, Beautiful Ones, Cityzenith, Digiglu, Intel, Intuitus, IOTA, IoT Lab, Mvine, r3, Stratus Technologies, Tantalion, University of Surrey, University of Ulster and VETRO FiberMap

URN: C20.0.04

<https://dtw.tmforum.org/proof-of-concept-catalyst-projects/>



